

平成30年度 地域でつながる家庭教育応援事業

# 親子の学び応援講座 (福島第三中学校区PTA)

日時：平成30年12月1日(土) 10:00~11:10  
場所：福島市立福島第三中学校 第3多目的室

講演「スマホ・ケータイ安全教室」～スマホ・ケータイと正しく付き合うために～

講師 NTTドコモ スマホ・ケータイ安全教室 CS東北  
インストラクター 永澤 亜希子 氏

スマートフォンやSNSは、生活に根付いた便利で重要なツールになっている。しかしながら、「ネットいじめ」「ネット依存 SNS 依存」「知らない人との出会い」など、様々なトラブルが社会問題になってきている。そこで、永澤氏の講演を通して、スマートフォンや携帯電話、SNS等の情報ツールを安全に活用するための方策について、親子で話し合うきっかけとするために、本テーマを設定した。

## 【講演の概要】

### 1 【講演】

#### (1) はじめに

- インターネットはますます便利になり、これからの時代を生きる子どもたちにとって、必要不可欠なものとなる。スマホやケータイを子どもたちに「使わせないようにする」のではなく、「上手に使わせていく」ことが求められる。そのために、保護者や教師がインターネット社会の利便性と危険性をしっかり理解し、子どもたちに伝えていく必要がある。

#### (2) フィルタリングの活用

- フィルタリングサービスの利用は、青少年インターネット環境整備法でも規定されている保護者の責務である。子どもたちが不適切なサイトやアプリにアクセスするのを防ぐためのものであるが、完全ではないので、心にもフィルタリングをかけて正しく使わせるようにさせたい。子どもの知識や能力、必要に応じて段階的にフィルタリングを調整しながら、将来は自分の責任で正しくスマホやケータイ等の情報ツールを使用できるようにしていくことが求められる。

#### (3) 子どもたちのコミュニケーション

- 仲のよいグループでの何気ないやりとりから、トラブルに発展してしまう事例がある。

#### 【事例】

(ラインで送信)「私、A君のことがすき」

⇒(相手からの返信)「どこがいいの」

この場合、相手は、「どういうところがいいの、もっと詳しく聞きたい」という好意的な気持ちで返信したが、本人は、「あんなA君のどこがいいの?」という悪い意味で受け取った。コミュニケーションアプリはグループでやりとりすることもあり、メッセージの流れが速く、その流れに追いつくために短い言葉で発信される特徴がある。



そのため、相手の表情や声の調子が伝わらず、誤解が生まれやすくなる。ちょっとしたきっかけから、仲間外れやいじめに発展してしまうこともあるので、メッセージを送る際は、きちんと気持ちが伝わる文章になっているか一度読み返すことや、文字だけのやりとりに頼らず、会って話すことも大切にさせていく。

#### (4) 知らない人との交流

- SNSがきっかけで犯罪に巻き込まれる子どもが増えている。高校生の6割が「ネットで異性と知り合った経験がある」、2割が「実際に会った経験がある」と回答している。思春期の子どもたちは、会ったことのない相手でも、思いが深まると相手を信用してしまう年頃であるので、悪意をもって、ネットで接触を試みる人も存在する。犯罪に巻き込まれないようにするために、ネットで知り合った人とは絶対に自分の判断だけでは会いに行かないことや、個人情報を教えないことを徹底させる必要がある。

#### (5) 情報の公開、思わぬ情報流出

- 子どもたちは、「公開している情報は匿名だから問題ない」「友達にしか送っていないから問題ない」と考えがちである。しかし、友達にしか送らなくても、その友達が別のグループに情報を共有して広がってしまうこともある。
- 投稿された断片的な情報（写真に写っている電柱の住所、背景の街の様子、学校の制服、ゼッケンや名札など）を組み合わせることで、住所や実名が特定される恐れがある。また、子どもが友達の情報を載せることで、その友達が危険にさらされることもある。インターネットは誰が見ているか分からないので、個人の特定につながる情報はアップしないようにさせる。
- 相手に下着姿や裸の画像を送り、その後リベンジポルノ等の被害に発展した事案が増えている。相手のスマホやケータイに保存された画像はどのように使用されるか分からない。また、ネット上に広まれば、完全に除去することは不可能である。たとえ、恋人や友達でも、広く公開されると困る画像は送ったり撮らせたりしないようにさせていく。



#### (6) ちょっとした冗談、軽はずみな投稿

- ちょっとした冗談のつもりで、軽はずみな投稿をしてしまうと、後で取り返しのつかないことになってしまうことがある。ネット上で炎上してしまうと、名前や住所が晒されたり、情報が拡散してしまったりする可能性がある。炎上した事実を完全に消すことはできないので、子どもの将来（進学、就職、結婚など）に影響することがある。
- 今のSNSの利用状況が10年後、20年後の自分に影響してくることをしっかり教えることが大切である。名前を隠しても必ず分かってしまうので、親に見せられないようなことをネットに公開したり、いたずらで犯行予告の書き込みをしたりしないようにさせる。また、迷惑行為をしている人がいたとしても、それを懲らしめるために、写真に撮ったりネットにアップしたりしないようにさせる。

#### (7) 誹謗中傷

- 悪意のある書き込みをされた際は、削除依頼をしたり、専門機関に相談したりするようにする。名前を伏せて相談できる所もあるので、1人で悩まないようにする。
- 悪口などを書き込まれたら、まずは周りの大人に相談するようにさせる。また、スクリーンショットなどで証拠を残しておくようにさせる。裁判になった際に、効果を発揮することがある。
- 安易に誰かの悪口をアップすることのないようにする。匿名だからといって軽い気持ちでアップしても、必ず投稿した個人が特定される。

#### (8) 使いすぎに注意

- オンラインゲームなどでの高額課金に関するトラブルが起きている。アイテム購入についてルールを決めることが必要である。

- 子どもによるインターネットでの商品購入や出品は保護者の監督のもとで行うようにさせる。トラブル時には、運営会社や公的な相談窓口を活用する。
- 子どもたちは、コミュニケーションアプリやスマホゲーム、動画サイトなどを多く利用している。長時間利用には、睡眠不足による体調不良、勉強時間の減少による成績不振など、様々な影響が懸念される。また、ネット依存に陥ってしまうと、感情のコントロールが効かなくなってしまう。そのような事態にならないように、きちんと時間を決めて使わせることが大切になる。

#### (9) 家庭でのルール作り

- スマホやケータイを上手に使うために、家庭内でしっかり話し合い、ルールやマナーを決めておくことが重要である。

##### 【話し合いの例】

- ルール違反があった場合、どうするかを事前に決めておく。
- 相手の家にもルールがあることを理解させ、友達とも話し合いをさせる。
- 何かあったら必ず保護者に相談するようにさせる。

- 保護者自身も子どもの見本となるように、ルールやマナーを守って使うように心がける。



#### (10) まとめ

- ① 子どもを守るために、フィルタリングを利用し、各家庭でしっかりルールを決める。フィルタリングの機能に頼るだけではなく、スマホをもたせる前にルールを作っておくことが大切である。
- ② 子ども任せにせず、スマホやケータイの利用状況を保護者が把握し、正しく使えるようになるまで見守る。場合によっては、保護者の抜き打ちチェックも効果を発揮する。
- ③ ネットトラブルやネットいじめ等で、子どもが1人で悩んでしまうことのないよう、気軽に相談できる雰囲気を作っていく。保護者のアドバイスは必ず助けになるはずである。

## 2 【参加者の声】

- 私の想像を超える現代のSNS事情でびっくりしています。来年は、子どもが中学進学なので、その前に今日のお話を聞くことができ良かったと思いました。スマホは、自分で使っていても、知識が追いついていないのが現状なので、子どもに持たせること自体も考えていく必要があると思いました。
- 安易に使ってしまっていたスマホ・ケータイですが、とても慎重に使っていく必要があると感じました。子どもを守る意味でも、正しい使い方を伝えるとともに、きちんと使っているか見守ることが親としての大切な役割であることを学びました。
- インターネットの世界は非現実ですが、それを見たり扱ったりするのは現実の人です。利用者が十分に理解した上で、便利な機能を使いこなせるように家庭の中で話をしたいと思います。
- ネットによるトラブル被害の防止について、まず大人である親がしっかり理解しておくことが大切だと感じました。子どもたちとも一緒に考えていくことが大切だと思います。
- 大変良い内容の講演で、説明がとても分かりやすかったです。今からすぐに役立てたいと思います。子どもを連れてきましたが、「知らなかったことがいろいろ分かった」と話していました。一緒に聞いて良かったです。
- 子どもだけでなく、大人の使い方についても、改めて考えさせられました。とても勉強になりました。ありがとうございました。